

離岸堤等の劣化予測線の作成方針(案)

離岸堤等の変状パターン、点検状況

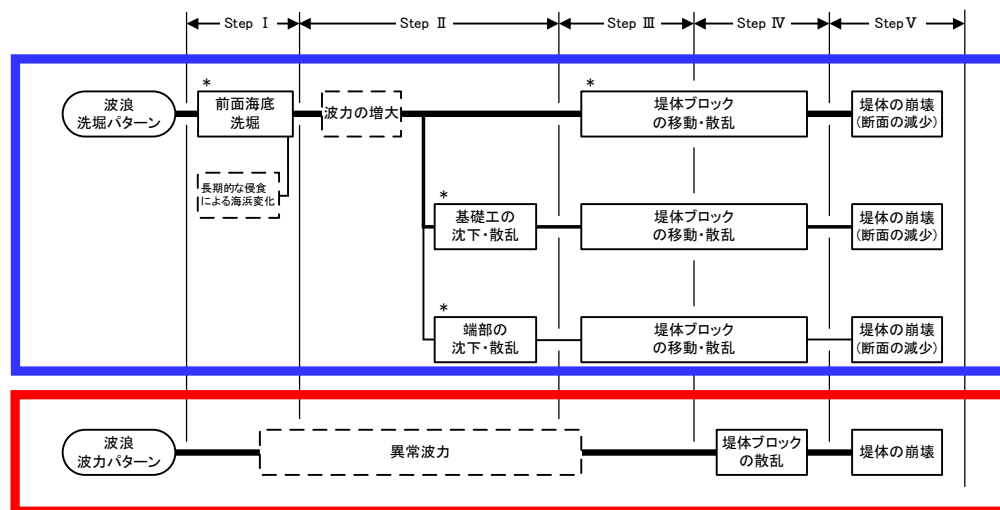
○離岸堤等の変状は、以下の2パターンに分類される。

①洗掘パターン：変状は徐々に進行することが推察

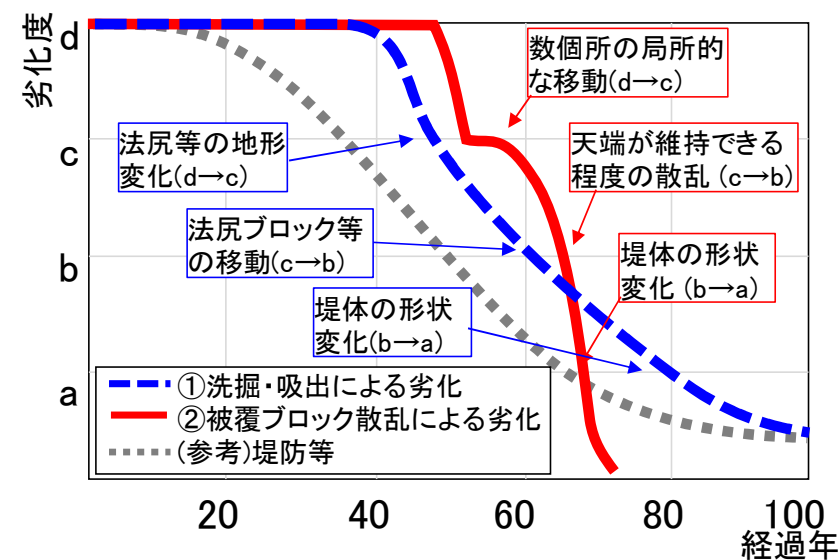
②波力パターン：変状は突発的に進行することが推察

○よって、劣化予測線は、本来、上記①②の2パターンでの検討が必要

例) 変状連鎖フロー(案)：離岸堤の場合 ※ 資料-4より再掲



本来の劣化予測線のイメージ



○海岸管理者における離岸堤等の点検等は、「施設毎」に実施

○離岸堤等においては、堤防・護岸のような「部材毎」の点検等は未実施

(例) 堤防・護岸等の点検項目 ※海岸保全施設維持管理マニュアル P31:一次点検項目

天端高、波返工、天端被覆工、排水工、消波工・根固工、砂浜

(例) 現状での離岸堤等の点検項目

「移動・散乱・沈下」、「ブロック破損」、「侵食・堆積」が多い

劣化予測線の作成方針(案)

- 離岸堤等の点検等は、現状では「施設毎」に行われている。
(被覆工・基礎工などの、「部材毎」の点検等は行われていない。)
- よって、データ収集可能な「施設毎」の点検及び健全評価結果から劣化予測線を作成する。

- (1) データの収集
- ・離岸堤等の被災事例
 - ・離岸堤等の点検結果・健全度評価結果

- (2) 評価基準毎の劣化予測線の作成
- ・同じ変状ランク・健全度評価でも、各海岸管理者で評価基準が異なる
 - ・そのため、以下の手順で劣化予測線を作成
 - ①各海岸管理者における、離岸堤等の点検項目、変状ランク・健全度評価基準を整理
 - ②類似した評価基準毎に、評価結果と供用期間の関係を整理し、劣化予測線を作成
 - ③評価基準毎に作成した劣化予測線を比較

- (3) 離岸堤等の劣化予測線(案)
- 上記(2)③における、評価基準毎の劣化予測線の比較結果より、
- 顕著な違いがなければ統一した劣化予測線を作成
 - 顕著な違いが見られれば、評価基準毎の複数の劣化予測線を作成
 - 今回改訂で位置付ける離岸堤等の点検・評価基準と上記の複数の劣化予測線を基に、マニュアルでの離岸堤等の劣化予測線を検討

- ※ マニュアル改訂後の課題
- 変状パターン(①洗掘パターン、②波力パターン)毎の劣化予測線の検討